

## 助成活動実績報告書

企画名	旭川流域のオオサンショウウオ及び水生生物調査
団体名	旭川源流大学実行委員会

### ① 動の目的について

本研究は、3013 年以来継続して行われている旭川源流部目木川水系の鏡野町富地区の国特別天然記念物オオサンショウウオの個体数・繁殖生態・分布の解明のための生態調査及び、これまでに行われた旭川流域の水生昆虫の資料整理と近年の生息分布の実態把握のために基礎的な調査を行うことを目的とした。また、11 月 3 日～5 日に長野県平谷村で行われた第 39 回水生昆虫研究会に参加発表して、全国の研究状況を見聞して学習してこること。8 月 29 日～30 日仙台市内の東北工業大学で行われた「第 8 回いい川いい川づくりワークショップ in 仙台」にエントリー発表参加して岡山の旭川の生物の多様性と地域ぐるみの観察活動や自然を生かした地域づくりの発表をして、全国に発信することです。

### ② 内容について

今年度の富地区のオオサンショウウオ生態調査では、毎月 1 回の計 12 回・1 回の調査人数 5 人程度・採集地域は目木川上流の 3 地点で行われた。夜間の調査が種であるために安全対策上の今日よくライト・ヘッドライトなどを発注した。環境測定用器具も発注した。観察会を現地富地区と蒜山津黒地区で行い説明用パネルを作成した。

また、旭川の水生昆虫調査については春・夏・秋・冬の各時期に旭川の上流部 2 か所・中流部 1 か所・下流部 1 か所において採集しそれぞれ検索同定した。未同定種については、専門家に同定依頼した。

### ③ この活動によって達成された成果

この調査で個体追跡調査のために累計で全捕獲個体数 62 匹（2013 年 24 匹、2014 年 29 匹、2015 年 9 匹）のうち 33 匹にマイクロチップを挿入した。

個体数把握と個体追跡による移動距離即永及び生息環境測定を行った。結果、2013 年生まれの幼生は確認できたが 2014 年生まれの要請は確認できなかったため 2014 年秋には産卵を行っていない可能性が高いと推測された。原因解析を行った結果、砂泥の大量流入堆積による巣穴の消失やこの時期の行われた護岸・堰改修工事などの人為行為による個体数減少と思われる結果となった。来年度以降に更に詳しく移動又は消失した個体の追跡を行うことにしている。

なお、調査対象が国基準の絶滅危惧 1 類種であるために調査地の詳しい情報は伏せさせていただき、調査報告については未公表とさせて頂きました。報告書は鏡野町教育委員会を通じて国・県の文化財担当部局に伝えています。

水生昆虫調査の結果は別途 2016 年度の第 70 回水生昆虫研究会での発表後に公表したいと思えます。これまであまり明らかで無かった旭川の水生昆虫相が 120 種余にまで増え、旭川の水圏での多様な生態系の豊かさが示された結果となりました。

#### ④今後の計画・展望について

今後の予定としては、オオサンショウウオについては、個体調査を引き続き行い、確認できている巣穴の内部を詳しく調査予定。更に DNA 分析の手法のよりチュウゴクオオサンショウウオの交雑の有無についても調査したい。水生昆虫については、旭川の各支流の源流中流下流の生息種の構成を明らかにしていきたい。そのためには成虫だけでなく幼虫の検索同定の技術を向上させる必要がある。このために専門家の招聘と学習会を行い、一般の方々にも分かりやすい岡山の水生昆虫種の特徴を記した検索用資料の作成が急務と思われる。